

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リカバリーかけがわ			
○保護者評価実施期間	令和7年 5月 20日		～	令和7年 6月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	15名
○従業者評価実施期間	令和7年7月1日		～	令和7年 7月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 8月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	特別支援学校に通学している児童が多数利用しており、トイレ介助、身の回りの介助、意思疎通等、手厚い支援を行っている。	・言葉での意思疎通の難しい児童、言葉が不明瞭な児童に対しては傾聴や視覚支援での対応を行っている ・五感を刺激する、室内での新聞プールを使った遊びを取り入れている。	将来の自立に向けて、保護者様や、学校。相談機関と連携し、児童の身辺自立を促していく。
2	リカバリーかけがわの利用を楽しみにしていると保護者からのお声を聞いている。	・保護者様や関係機関を招いて季節行事のイベントや参観を行い、交流の場を設けている。	参観の出席率が低いため、今後も工夫が必要に思う。
3	職員間の連携が取れており、些細なことでも、共有し、支援に繋げている。	支援前の打合せ時の支援の共有や、終礼時に連絡事項等、職員が意見を出せるように環境作りを行っている。	業務に対して、モチベーションが上がり、ポジティブな気持ちで取り組めるよう環境作りを続けていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域連携の取りづらさがある。	近隣は、病院や工場、アパート等が多くあるため、連携が難しい。	地域の小学校やこども園、児童館との連携を行っていく。 エリアでの、イベント等の開催があった際には、チラシ等を地域の関係機関等に配布をしていく。
2	活動がマンネリしてしまうことがある。	手厚い支援が多い児童が多くいる為、「できること」中心に考えるとマンネリしてしまうことがある。	外出支援等、今まで出向いたことのない場所も、安全に配慮しながら行っていき、新しい発見をしていきたい。 同じ活動でも、自立度が高い児童には役割を持たせることや、制作活動では、準備の段階での工程を考える必要がある。
3	支援室は広いが、ワンフロアの為、不穏になった児童の声が聞こえてしまい、不穏な状況が他の児童にも連鎖してしまうことがある。	パーテーションで区切ってある場所への移動、簡易パーテーションを使って、視覚に入らない様に工夫をしている。	視覚には入らないが声は聞こえているため、不穏にならないことや不穏になった際の対処法等、児童の特性を掴む等、職員との情報共有や話し合いを常に行っていく様に取り組みを続けていく。